

<p>重点取組名</p>	<p>中山間地域担い手組織の育成と良食味米の生産拡大 1 共乾を中心とした特色ある米の販路拡大</p>															
<p>普及活動担当</p>	<p>市丸喜久（東松浦農業改良普及センタ -、農畜産担当係長）</p>															
<p>主要な活動地域・対象農業者</p>	<p>あうちヒノヒカリ生産研究会、低蛋白夢しずく栽培農家38戸 （相知町田頭、上園、伊岐佐上集落）</p>															
<p>取組結果・成果 <取組みのねらい></p>	<p>【取組みのねらい】 中山間地の水田を守っていくために、特色ある米の生産拡大を図り、売れる米づくりを促進する。このため、よりおいしい米生産技術の開発と新しい商品開発に努める。</p> <p>【取組み結果】</p> <p>(1) あうちヒノヒカリの生産拡大 需要拡大への対応として、研究会員の拡大のために、特栽米栽培の方法などについて研修し、候補集落での推進に努めた。 研究会員の結束を強めるための研修会、県外の先進地視察などを実施した。会員全体の技術力のレベルアップを図った。 収量確保のため、研究会の2集落を対象に、現地検討会を育苗期以降5回開催した。また、食味向上の観点からは、施肥管理・水管理・圃場区分の徹底を図るため検討会や圃場確認会を実施した。</p> <p>(2) 卸との流通商品の共同開発 地元卸と連携し九州域内へ販売展開するために、おおむね二ヶ月の1回の割合で農協とともに販売促進会議を開催した。 パッケ - ジについては、「有機農産物等販路拡大事業」(県単)を活用し、卸、小売店及び農協直売について、全て5kg同一米袋を活用し販売を展開した。 ブランド化し価格を維持する観点から、逢地の里の米「ヒノヒカリ」はタ - ゲットを、福岡市内のレベルの高い小売店舗に絞ることとし、価格は3千円/5kgを維持するため、売価を下げた小売店舗には供給しないこととして、販売展開を図った。 販売促進活動については、5月と新米供給時の11月に実施し、米の特徴や食味試験のデ - タを持参説明するとともに、要望などについて聞き取りした。 販促に使用する食味試験デ - タについては、普及センタ - で整理し卸、農協と共有化し販売活動に活用している。 低蛋白米の「逢地の里の米夢しずく」は、地元デパ - ト宅配専用で売り出し売価はヒノヒカリと同様3千円/kgとした。</p> <p>(3) 消費者への商品PR 5月にNHKより「あうちヒノヒカリ」等低タ^パク米に関する問い合わせがあり資料提供し、取材協力を研究会に依頼した。10月に取組が九州沖縄エリアで放映され、産地の認知度が高まった。 交流会は卸と連携し、小売店舗のお客様や小売店経営主を中心に、体験交流会を開催した。また、地元では、幼稚園児とその父兄との交流会を開催し「地元カントリー - 米」のPRを実施した。</p> <p>【成果】</p> <p>(1) あうちヒノヒカリの生産拡大</p> <table border="1" data-bbox="405 1921 1417 2042"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>現 況</th> <th>当年度成果目標</th> <th>実 績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あうちヒノヒカリ</td> <td>戸 数</td> <td>22戸</td> <td>29戸</td> <td>35戸(H18年新規含)</td> </tr> <tr> <td>生産研究会</td> <td>面 積</td> <td>13ha</td> <td>20ha</td> <td>25ha</td> </tr> </tbody> </table>			現 況	当年度成果目標	実 績	あうちヒノヒカリ	戸 数	22戸	29戸	35戸(H18年新規含)	生産研究会	面 積	13ha	20ha	25ha
		現 況	当年度成果目標	実 績												
あうちヒノヒカリ	戸 数	22戸	29戸	35戸(H18年新規含)												
生産研究会	面 積	13ha	20ha	25ha												

17年度の作付者は上園・田頭集落で28戸、18年度は新たに伊岐佐上中集落で新規に9戸があうちヒノヒカリの生産に取り組むことになり、戸数・面積ともに目標を達成した。

ただし、量的には、80トンの目標に対して平成17年は57トにとどまった。

(2) 卸との流通商品の共同開発

	現況 当年度成果目標 実績			
福岡小売店舗数	店数	0店	2店	8店 (他佐賀市1店)
(市内小売店舗数)	店数	-	-	8店
商品開拓	商品数	0商品	2商品	2商品

新たな販路拡大として、福岡市と地元唐津市の拡大に取り組んだ結果、福岡市の屋部商店など8店、小倉屋など地元小売店8店に販路が広がった。

新たな商品開拓として、地元卸(シ・ピ・食糧)農協と協議しパッケージ等を統一した商品を「逢地の里の米ヒノヒカリ」、「逢地の里の米夢しずく」として販売することになった。

食味試験の結果では、総合値が一般のヒノヒカリ(0.00=基準)に対して逢地の里の米ヒノヒカリは+0.87*(+0.75*)、同夢しずく+0.52*となった。また東京S店舗の宮城K産ひとめばれより明らかに優れ、新潟U産コシヒカリと同等の評価値が得られており、小売店舗の評価も高い。

(3) 消費者への商品PR

	現況 当年度成果目標 実績			
地元消費者	交流会	1回	2回	2回 (9月、12月)
(TV放映)	NHK	10月14日	「九州沖縄金曜リポ-ト」	30分番組

テレビ放映後の反響が大きく、地元直売所販売見込みが年間15tと大幅に拡大した。

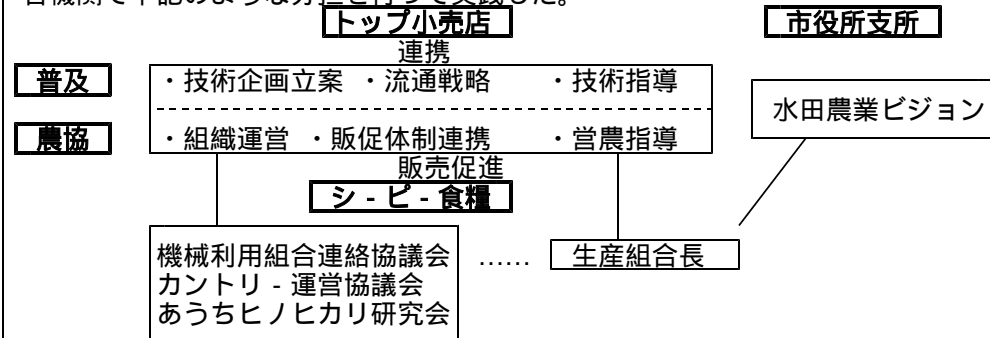
連携機関、協議会等

相知町水田農業推進協議会、佐賀松浦農協(現唐津農協佐賀松浦営農本部)、唐津市役所相知支所

取組の特徴や取組に際しての工夫

推進体制

各機関で下記のような分担を行って実践した。



【参考】

「逢地の里の米ヒノヒカリ」の食味試験結果(17年産米) 佐賀県松浦農業改良普及センター

米の種類	総合	粘り	味	硬さ	備考
佐賀松浦一般ヒノヒカリ	0.000	0.000	0.000	0.000	17/11.8, 15平均値
逢地の里の米ヒノヒカリ	+0.748*	+0.596*	+0.558*	-0.162	試験43名
宮城県K産ひとめばれ	+0.165	-0.137	-0.079	+0.732*	
新潟県U産コシヒカリ	+0.532*	-0.335	+0.401	+0.676*	

*ひとめばれ、コシヒカリは東京S小売店取扱物

**逢地の里の米ヒノヒカリはあうちヒノヒカリ生産研究会会員の生産物